

2022年度 独創的研究助成費 実績報告書

2023年 3月 30日

報告者	学科名	子ども	職名	講師	氏名	樟本千里
研究課題	道徳的な物語は子どもの誠実さを促進するか					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	子ども・講師		教育心理	実施・計画	
	分担者					
研究実績の概要	<p>絵本や童話は子どもを楽しませるだけでなく、教育教材として有用なものであると信じられている。幼稚園や保育所では、ほぼ毎日様々な目的をもって絵本の読み聞かせに代表されるストーリーテリングが行われている。子どもは幼い頃から、社会化の手段や文化的価値を伝える教育教材として、たくさんの物語や寓話に触れている（Henderson & May, 2005; Kim, Green, & Klein, 2006）。しかし、これらの物語が子どもの実際の行動にどのような影響を与えるかは、まだほとんど研究されていない。</p> <p>道徳的価値の一つに「正直さ、嘘をつかない」というものがある。子どもの嘘の研究では、子どもは自分の罪を隠すために、2～3歳の頃から嘘をつき始めることが示されている（Evans & Lee, 2013; Talwar & Lee, 2002）。さらに、加齢に従って、子どもの嘘は巧妙になっていくことも示されている（Talwar & Lee, 2002, 2008, Evans & Lee, 2013）。</p> <p>本研究では物語に含まれる道徳的価値についての検討（研究1）を踏まえて、道徳的なお話が、幼児期の子どもたちが正直であることを促進するのかについて検討した。</p> <p><研究1></p> <p>目的 日本昔話とイソップ童話、グリム童話の道徳的価値の抽出と分類</p> <p>結果 日本昔話、グリム童話およびイソップ童話を選択し、日本昔話、101話、グリム童話20話、イソップ童話52話の計72話を分析の対象とした。まず、調査者が各々童話を読み、童話に含まれていると考えらえるテーマをラベルした。その後、調査者全員で童話に含まれているテーマについて話し合い、それぞれの童話が含んでいるテーマを決定する手続きをとった。なお、童話によっては、複数のテーマを含み、話し合いで決定しなかったものは、複数のラベル付けも認めた。グリム童話およびイソップ童話に含まれる13のテーマを抽出した。すなわち、①賢さ、②因果応報、③嘘、④愛、⑤約束、⑥幸運、⑦正義、⑧努力、⑨正直、⑩幸せ、⑪優しさ、⑫欲、⑬素直さである。</p> <p>日本昔話は、同一ラベルを付けるのが困難であったこと、また、グリム童話に比べて、イソップ童話の方が寓話的な内容が多かったため、研究2では、グリム童話からお話を選択することとした。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p><研究2> 目的 道徳的なお話が、幼児期の子どもたちが正直であることを促進するのか。 方法 被験者 4歳児20名、5歳児23名の合計43名。材料 誘惑抵抗課題：Talwar & Lee (2008) で作成された誘惑抵抗課題を参考に一部修正し、ぬいぐるみの中にスピーカーを仕込み、任意のタイミングで音が出るようにした。認知能力測定 TOM を使用した。 物語刺激 研究1から、③の嘘をテーマにした「海豚と猿」「北風と太陽」「オオカミと子羊」の3話を選択した。被験者を年齢、認知能力を考慮し3群に分けた。それぞれの群に物語を読み聞かせた後、誘惑抵抗課題を実施し、誘惑に抵抗できたか否かについての被験者の回答をもって嘘にたいする態度を測定した。 結果 調査を3月30日まで行っていたため、分析は今後行い、報告する予定である。</p>
<p>成果資料目録</p>	